

1. 目指す学校像

(1) 教育理念

グローバルに激変する社会環境の中で自立し活躍することのできる人材の育成を念頭に、異文化への理解を深め、他者への尊敬と人権尊重・社会貢献の精神を育む。

(2) 学校組織

- ①目標や情報の共有化、決定プロセスの透明化（「見える化」）を図ることにより良好な協働体制を構築し、モチベーション及びモラルの高い学校運営組織を実現する。
- ②学校行事等の成果検証を適切に実施し、オペレーティングコミュニティ(企画調整会議)、委員会やプロジェクト、経営会議を有機的に機能させることにより、スピーディに学校運営を推進する組織を実現する。
- ③英語とビジネス教育を柱とした特色ある教育活動を展開することにより、進学型専門高校のフロントランナーとして東京都の教育を牽引する。

2. 中期的目標と方策

(1) 進学型専門高校としての高い評価を定着させるため、独自性のある教育内容や指導方法を追究・発信する。

- ①学校設定科目「ERP (Extensive Reading and Presentation : 多読と発表)」を体系的に実施する。
- ②school in school としての「千早 English Island(海外連携プログラム)」を組織的に展開する。
- ③経済社会を学ぶ「千早ビジネス教育」の体系化を図るとともに、授業、部活動や学校行事等のあらゆる教育活動の場面で、他教科・他分野等との融合を展開する。

(2) グローバル人材の育成を図るため、意欲ある生徒の獲得、入学後のきめ細かな指導、安定した進路実績により、本校の教育への期待と信頼をさらに高めていく。

- ①Creating their Futures : 生徒が、自らの未来を切り拓く能力を育成するキャリア教育を推進する。
- ②進路支援の体制の充実を図るとともに、卒業生の追跡調査により本校の教育活動の検証・改善を図る。
- ③特色ある学校行事を実施するとともに、本校を牽引する代表的な部活動の強化を図る。

3. 今年度の取り組み目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

①学校経営

- ・本校の特色を理解した意欲ある生徒を安定的に確保するため、広報活動を計画的に推進する。
- ・教員の授業力向上を図るため、教科主任を中心とした各教科における人材育成、授業公開や若手教員研修を活用した教員相互による授業参観を実施する。
- ・「OJT診断基準」や「執務ガイドライン」、「経営参画ガイドライン」に基づき、会議・委員会等を効果的に活用して校内OJT体制の充実を図る。特に拡大分掌会の充実を推進する。
- ・日常的なクリーンデスクを励行し、東京都の個人情報取扱基準を含む「千早ハンドブック（校内諸規定集）」を活用・遵守して学校の保有する生徒の個人情報を適切に管理する。また、帳票類を適切に作成し管理する。

②学習指導

- ・各教科でグループワークやプレゼンテーション等を取り入れることにより、思考力や判断力、表現力を高めるとともに、生徒の主体的な学習態度を育成する。
- ・国語と英語の必修科目では、3年間を通して習熟度別の少人数授業を展開することにより、各教科の基礎力の定着を図り、生徒の学力向上への一層の効果を上げる。
- ・第1・2学年生徒が学習する必修科目について、本校独自の「学力スタンダード」を策定し、明確な学習目標に基づいた指導と評価を組織的・効果的に行う。
- ・「使える英語」を楽しく学習させるため、学校設定科目「ERP (多読と発表)」の組織的な指導体制の充実を図るとともに、生徒の変容や学習の成果を検証して発展的な学習につなげる。
- ・実社会との関わりを通じてビジネスの学習を深化させるため、企業やNPO、地域等との連携を図りながら、幅広いソーシャルビジネス等を取り入れた「千早ビジネス教育」を展開する。

③生活指導

- ・グローバル人材としての基礎となるタイムマネジメントやルール・マナーを身に付けさせるため、正門指導、朝礼、集会、学校行事、課外授業等を通して、基本的な生活習慣を確立させるとともに、規律ある学校文化の定着を図る。

- ・「生活指導統一基準」に基づき、千早生として身に付けるべき規律・規範等を明示し生活指導の充実を図る。
- ・スクールカウンセラーによる第1学年生徒の全員面接や保護者・関係諸機関との連携等を図り、生徒の心身共に健やかな成長を促進する。

④進路指導

- ・将来の進路選択及び進路実現に向けて学ぶ目的を段階的に育成するため、「千早進路ロードマップ」に基づき、学年別進路セミナーや進路模擬試験、卒業生講話等を系統的・計画的に実施する。
- ・生徒の多様な受験を支援し、進路決定を実現するため、小論文対策委員会の充実を図り、全教員が横断的に小論文・面接等の進路指導に関わり、分野別や学部別等の個別指導を組織的に行う。

⑤特別活動・その他

- ・ビジネスコミュニケーション科としての個性化・特色化をより一層図るため、「英語」と「ビジネス」をはじめとする各教科等が様々な形で融合した教育活動を組織的に展開する。
- ・世界規模の視野で物事を考え、地域の視点で行動する能力を育成するため、地域や関係諸機関、SPA保護者の会、人材バンク等と連携し、「グローバル」な視点での教育活動を継続する。
- ・オリンピックパラリンピック教育を推進するため、様々な教育活動を通して異文化理解や日本の伝統文化への理解を図り、「おもてなし教育」を推進する。

(2) 重点目標と方策

①学校経営

- ・本校の特色ある教育活動を広く都民に発信するため、学校ホームページを効果的に更新し、横断幕の掲示等により広報活動の充実を図る。
- ・ICTリーダーを中心に、各教科でICT機器の実践的な活用に取り組み、教員相互で共有することで、教員一人一人の授業力向上を図る。
- ・教科代表者会議や東京グローバル10プロジェクトを中心に、ビジネスコミュニケーション科として特色ある教育活動を推進する。
- ・経営企画室と職員室の密な連携の下で、適切な予算編成・管理・執行を行い、教育資源の充実を図る。

②学習指導

- ・「東京グローバル10」指定校として、生徒の英語力の向上を図るため、特色ある英語教育や国際理解教育を推進するとともに、JETプログラムの効果的な活用に取り組んでいく。
- ・生徒の英語の定期的な効果測定に基づく学習指導の改善・充実に取り組み、「使える英語」の定着を図る。
- ・課題の提示を工夫・改善するとともに学校図書館の効果的な活用に取り組み、自学自習時間の増加を図る。

③生活指導・進路指導

- ・関係諸機関と連携した実践的・体験的な教育を推進し、自らを守る能力や他者を尊重する心を育む。
- ・CSL委員会を中心に、新教科「人間と社会」を推進し、道徳教育及びキャリア教育の充実を図る。
- ・「千早進路ロードマップ」に基づき補習・補講の体系化を推進し、組織的・体系的な指導を行い、有名私大への進学を含め、生徒一人一人の進路実現を図る。

④特別活動・その他

- ・全ての教育活動でコミュニケーション能力の向上を図り、2学年の海外修学旅行で効果を検証する。
- ・各部活動において、自主的・自立的な活動のさらなる推進を目指し、年間目標や指導方針を定め、体罰等の無い適切な指導による部活動指導を展開する。
- ・文化・スポーツ特別推薦の活用により、部活動の充実と学校の活性化を図る。

4. 数値目標 * () 内は昨年度実績

入学時	在校時	卒業時
<ul style="list-style-type: none"> ・推薦 3.0 倍以上 (2.84 倍) ・一般 1.4 倍以上 (1.44 倍) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自律経営推進予算執行率 100%(99.1%) ・生徒による授業満足度 90%以上(83.7%) ・1日当たりの自学自習時間 60分以上(32分) ・学校評価における教育相談の肯定的評価 70%以上(54%) ・部活動加入率 85%以上(79%) ・実用英語検定準2級以上受検者 300名以上(209名) ・クラス1日当たりの遅刻者数 1人以下(1.16人) ・全商簿記検定3級以上合格者 200名以上(201名) ・学習環境満足度 80%(74.8%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路決定率 100% (94.9%) ・進学希望者の進路決定率 100% (96.8%)